

後援会へのお誘い

なつの元志^{もとし}

始動

S T A R T !

なつの元志 後援会

下積みが糧

私は「射水の子」です。

——いよいよ人生を政治の道ひと筋に歩む覚悟を決めましたね。その時が来れば、自ら退路を断っての挑戦に身を投じることになりましたが、まだ若い夏野元志という人間がどこまで受け入れられるのか、その一点が関門になりそうです。共感を得るのに育ちや学歴は意味を成しません。あなた自身の人間力が試されるはずです。

夏野 確かに父は地元元の建設会社の経営者であり、県議会議員でもありましたが、私はそうした家に生まれた男である前に、一学年一クラスの学校の

いたお父さんが町議会や県議会で活躍されたことが影響しているんでしょうね。

夏野 私が生まれたころ、父は大門町議会議員でした。祖父が起こした会社も家族経営の小さな規模で、母が会社の事務をしていました。家族だけで出かけたことはほとんどなく、子供のころの記憶には、会社の慰安旅行に連れて行ってもらった思い出ぐらいしかありません。当時はまだ祖母が健在で、私は学校から帰ると、祖母の畑仕事の手伝いをしたり、よく町の接骨院へ祖母について行ったものです。

祖父が創業した会社は砂利屋から始まり、やがて土木建設業を手がけ、砂利を運ぶダンプを走らせるようになり、ある程度の規模になったところで、会社を分けて現在の射水建設興業が生まれました。私は何もかもが会社中心の家庭で育ったせい、いつかは祖父が起

友達と外を駆け回って育った「射水の子」だと思っています。ですから、この土地の水や空気、美しい緑が私の栄養となり、大学へ進んで故里を離れても、必ず戻って地元にくす人生を送りたいと腹を決めていました。

私が育ったのは庄川に近い田園地帯の土合です。第二次ベビーブーム世代ですが、浅井小学校の私の学年は一クラスだけの二十九人で、保育園から八年

こし、父が育てた会社を自分も支えたいと考える子どもでしたが、自分自身が議員になろうと意識したことはありません。

ただ、議員を続ける父の演説会や会合に顔を出すようになったころ、地元の将来を熱く語る父の仲間の方々の挨拶、考え方に触れ、自分ならこうしたいと故里のあるべき姿に思いをめぐらせ、富山県の形や自分が暮らす町の形を心の中に描き続けた経験が、気がつけば、現在の私の政治における考え方、感性の土台を築いてくれたのは間違いありません。

汗まみれの土木現場で労働の尊さを知る

——人はどんな環境に生まれ育つのか、それは運命に過ぎません。しかし、与えられた環境を礎に自分の人生を切り拓く努力をするのか、しないのか、それが人生に後悔や明暗をもたら

間、同じクラスなので、同級生は兄弟みたいなものですよ。庄川で魚釣りに興じ、十月の祭りには集落の獅子舞で棒振りをしていました。最近若い人が少なくなっているので、四十五歳ま

すはずですよ。一人の男として、どう謙虚に雄々しく生きていくべきなのか。あなたはその人生観も問われることになります。

夏野 私は大学を出て父が経営する会社に入社しましたが、「自分はオーナーの息子」と思いついた態度で仕事したことはありません。むしろ、その時々、与えられた立場で、一人の社員として会社が求める仕事に打ち込んできたつもりです。

私は次男坊でしたから、専門知識で会社に役立つ立場がベストとわきまえ、技術面から会社の仕事を担う目的を持って東北大学の工学部へ進学しました。幅広い土木分野の中でも、専門としたのは地学的な分野であり、地震と地質・地盤構造の関係、地滑りなどの研究をしていました。その知識・経験をもとに、今は県議として、地震など災害対策の技術面を考えるうえでお役

では獅子舞の世話をするつもりです。また商工会青年部の一員ですから、根っからの地元育ちです。

——なぜ政治を志されたのか、それはやはり、最も身近に

に立っていることが幸いです。

ですが、私が入社した当時は、道路や河川をはじめ、ありとあらゆる現場で汗にまみれ、長靴にヘルメット、首にはタオル巻いてスコップを手に入っていたものです。現場監督でもあったのですが、仕事の進捗に目配りする仕事の手が少しでも空けば、作業員の皆さんと一緒に穴掘りに精を出しました。遠く県外へ出さず、ぱりの仕事も多く、新潟県の姫川の水害関連の工事や妙高高原での工事では、三年ほど現地に住み込んで土にまみれました。水害関連の工事では、上流から押し寄せた大きな木や石をどうやって動かすか仲間と議論に熱中したものです。が、現場からたたき上げ、自分なりに下積みを経験した歳月が、私に「人」のために「動き」「働く」ことの素晴らしさを叩き込んでくれました。

突破力

一途にぶれない 不器用さが持ち味

—— 市民生活の幸不幸と直結する自治体の政治には、説く力と解く力が不可欠です。その相手はいかなる時も市民であり、「人が主役」の原点回帰が、国政でも県政でもない、市政を舵取りする立場に求められる理念です。ご自分の政治信条と照らし、どう思われますか。

夏野 私はことに当たって、常にいくつかの可能性、それぞれを道筋を深く探りながら考えるタイプです。熟慮したうえで、決めたことは何が何でもやり抜く性格も持ち合わせています。ところが、県議会議員として活動する際に経験した教訓ですが、自分より年上の方を含め、

大勢の県職員と接するうち、自分の知らない間に、話が何重にもオブラートに包まれていき、問題の本筋が見えなくなっていくんです。それが地域の問題であれば、地域が見えなくなっていく訳ですね。

これは、行政の長や議員がともすれば陥る落とし穴と言えるかもしれません。こうした場合は、一人でも多くの人と会って多角的な話を聴き、そこで得たニュアンスやポイントを組み合わせながら、自分なりの考えを構築していきます。そうしたプロセスがあって、問題の病巣を解き明かし、原因の排除を説く自信も生まれてくるはず。このスタンスはすでに自分の政治スタイルになっていますが、幸いなことに人見知りする性格ではないので、いろんなところへ飛び込んでいきたいと常々思っています。

—— **あなたをいま突き動かしている使命感はどこから来ている**

づくものであるとすれば、経験のない私が、すべてをリセットして新しい政治を志していくうえで、若さが持つ突破力は十分にメリットになりつると確信しています。

ここで、少し射水市の現状認識についても話させてください。射水市は合併4年目

に入りますが、現段階で合併効果がしっかり活かせる方向に進んでいるかと問われれば、ノーと言えません。市民の皆さんの間には現状の閉塞感を打破したい思いが今もなお根強いのですから、未来への夢を描いて、市民に示し得ているかどうかは疑問です。県議会議員の立場で

るのですか。ご自分の性格も併せて、お聞きしたいと思えます。

夏野 小・中・高を通じて所属したボーイスカウトで経験し、学んだことが今日の私の基礎になっています。そこで得たのは、自己犠牲の心と奉仕の精神にほかにありません。「世のため、人のため」という考え方をボーイスカウトで体中に染み込ませたことは、政治家夏野元志の大きな糧となっています。

血液型はA型で、きまじめな面があり、何事もきっちりやらないと気がすまないところがあがり、融通が効かない一面もないとは言えません。しかし、逆の見方をすれば、一途にぶれない一面とも言えるでしょう。不器用な人間ですから、「もう少し要領よくやればいいのに」と忠告を受けることもあります。これが素顔の私であって、変わりようがありません。

ですから、意見を言う場では、けっこつ思ったことを言わ

います。県議会の書道クラブで、今年の年頭に「古裂今破」と色紙に書きました。「古きを裂いて今を破る」と読むのですが、古いしがらみや前例にとらわれず、今の閉塞感を打破していくのが私の使命であると考えています。

—— **「行政は究極のサービスである」と口にする知事や自治体の長が増えています。こうした政治家に共通するのは、プロデュースの能力であり、自治体経営の感覚であると考えますが、こうした流れをどう受け止めますか。**

夏野 まさしくそうです。ね。国、県、市町村は住民が納める税金でサービスするわけですから、まさに「行政は究極のサービス」です。ただし組織の中では、ややもすると、

せてもらってききましたが、「俺について来い」という人間ではないと思います。子供のころから、自ら人前に出て仲間を引っ張るタイプではなかったのですが、いざ、その立場に立たされれば、責務を果たす、そのために常に裏表なくベストを尽くしてきた、それだけは自負しています。

前例が怖くない 若さこそ武器になる

—— **ご自分のセールスポイントをどのように考えておられるのですか。政治には行動力よりもりますが、構成員や計画力も必要です。夏野さんの力はどうな力だとお考えになっていますか。**

夏野 セールスポイントを挙げるとするならば第一に可能性です。若いことは経験がないことに通じ、経験がないことはデメリットでもあります。これまでの政治が長い間の経験則に基

上の人の顔色を見て仕事をするのがあり、それがあっては「市民に顔を向けた行政」はただのお題目になってしまいます。住民の声をよく聞き、暮らしの実情に目を向ける…、そこで初めて何をすべきかが見えてくる…、そうした図式が明確な行政でなければ尊い税金をお預かりする資格はないと考えます。

今の時代の行政マンは高い倍率の試験を優秀な成績でパスしている人たちなので、何かを成すためにどうすべきかを考えた時、必ずその答えを出し、方法を打ち出す能力を持っています。ですから、その能力をフルに使って市民に満足してもらえる存在に徹するべきです。民間企業は成績が良ければ報酬で報われますが、「タックスイーター」と位置づけられる行政マンは、市民の満足や喜びを究極の報酬とするのが理想の姿です。



痛みを知る

過去の延長線上で 停滞する市政に 合併効果なし

—— 国政、県政、市政の役割
についてどんな見解をお持ちで
すか。国政は国の骨格を作り、
県政は国と地域の間で血税を行
き渡らせる血管をつかさどり、
市政は一つひとつの政策に喜怒哀
楽を感じる神経を走らせる。
言い換えれば、そこに暮らす人
の痛みを知る唯一の立場が末端
の行政であると思えますが…。

夏野 国会は基準や決めごとの
線引きをする法律をつくり、国
をとりまとめています。その
守備範囲は国の主要なことに限
るようになり、できるだけ地方に
分権していくべきだと考えます。
日本は小さいながらも多様な地

域の集合体ですから、全国一律で
やるうとしても対応しきれませ
ん。このため、すでに地方分権の
流れが起きてはいますが、その道
筋が十分に見えていない今、単に
道州制ありきの議論を進めるのは
危険が伴うでしょう。

十五の市町村からなる富山県に
は、複数の市町にまたがる観光と
か医療の課題が山積しています。
例えば、産時救急の高度医療や子
供の集中治療など県が取り組む課
題があり、中には国がやるべきこ
ともありますが、これからは地方
分権の流れに先んじて、市町村が
自ら担っていくべき役割が大き
くなっていくと考えています。

なぜなら、病の痛みを訴える人
の声、切実な願いを皮膚感覚で知
りうるのが地域行政であり、近い
将来の地域行政は出来ることは自

分たちで担う工夫と努力が求め
られていくはずだからです。

—— 確かに、国や県でできな
いとなれば、市や町でやるしか
ない訳です。その意味では、市
長には市民に信頼され、喜ばれ
る「企業経営者」に近い自治体
経営者の力量も求められるので
はないですか。市民はいわば「株
主」と同じですからね。

夏野 そこが大事なのですが、地
域間競争が激しさを増す中で、ま
さに「待ったなし」です。一例で
すが、射水市の行政は、市外の方々
から「射水市はいいところだから
住んでみたい」「子供を生み育て
たい」と思われることを目標に掲
げ、それを実現する効果的な施策・
事業を打ち出すべきです。しか
もその際は、今までの単一的な行
政手法、考え方に固執せず、無駄
を省いた企業的な考え方で効果
的な施策を打ち出し、住民の理解
を得て実行していくべきだと考
えます。

今、射水市は十万人弱で、人口

てはいけません。そうすること
で、他と差別化し、他より良い街
づくりをするのが私の信念です。

—— これからの行政は、住民
サービスに追われるだけでなく、
新たな利益を生み出すことが必
要なのではないでしょうか。近
年は、営業部を作る自治体さえ
も増えています。

夏野 そつですね。「何を売るか」
という考え方は大切ですね。行
政には、与えられた予算をこな
す考え方はありますが、「何をど
のように生みだしていくか」と
いう考え方は必要ですからね。

私の既存の小さなリーフレッ
トに掲げたキャッチフレーズに
「市民協働」があります。射水市
では実際にこれまで「市民協働」
の取り組みが進められてきまし
た。各地域を自治会単位に分け
て、自治会の力に依り取り組
めることに予算を付け、地域の
皆さんのお力を借りて街づくり
を進める考え方です。ところが
現状では、行政の下請け以外の

何ものでもなく、地域の独自性
や地域の皆さんのアイデアは活
かされていません。

射水市の各地域は、それぞれ
工夫しながら多彩な取り組みに
知恵を絞っています。農業が強
い地域もあれば、8号線の近く
の外国人の中古車販売店が並ぶ
地域では、住民の防犯パトロー
ルに外国人の方にも参加しても
らっている。そうしたアイデア
を活かしながら、地域の人たち
が自分たちの思いで地域の仕組
みづくりを進める市域内での「市
民協働」特区的な感覚が重要だ
と考えています。

地域の規模の基準を明確にし
て、予算やこれを執行できる権
限を条例に定め、住民と協力
相談しながら、行政と歩調し合
う形で、市民のエネルギーを引
き出し行政の力に取り込む「市
民主役」の市政モデルがあつて
いいはず。それが新しい射
水市の形を生み出していくと思
っています。



は挑戦者として始動したのです。

市民と協働する 新しい市政モデルに挑む

—— 自治体のトップに求めら
れるのは「住民と未来を共有す
る」一体感の自覚です。それは
当然の責務であり、予算を束ね
て執行する以上、道理にかなつ
た説明責任も負わなければなり
ません。

夏野 私は県議という立場で地
域に目を凝らしていますが、射
水市はもっと伸びる可能性があ
り、地域の皆さんの期待も膨ら
んでいるのに、その期待に十分
に応えきれないと判断して

程度、必要なら予算を配し、
無駄遣いを削減するメリハリの
効いた行政が行われてきました。
しかしながら、住民の皆さんの多
くは、市の行政システムと自分た
ちの間の距離感になじめず、射水
市が今何を考え、どんな市になろ
うとしているのかが見えないも
どかしさを感じています。
市が何を考え、何をやるうとし
ているのか、その市政プランが市
民と共有されず、結果として認知
されていないところに問題があ
ります。これだけ地域間競争が厳
しい時代にあつては、市民の思い
を結集した街づくりに英断を続
けていかないと、競争に勝ち残っ

いみずに**元**気を与え、**志**気を高めます。



市民による市民のための市政

現在の市民協働の取り組みをさらに進め、地域が十分な予算とその執行を地域の意見で決定できるよう、しくみの条例化も含め積極的に取り組めます。地域は決して行政の下などではなく、対等の立場であり市政のパートナーとして地域の特色を活かした活動ができるよう取り組めます。

新生いみずの創造を目指します！

「サービスは高く、負担は低く」といった、皆さんの様々な夢を担って射水市が誕生し、4年が経とうとしています。今こそ、原点に立ち返り、各地域の特色や合併の効果を活かしたまちづくりや行政運営を行い、皆さんの夢を実現する市政、市民のための市政を徹底的に行います。

プロフィール

1972年10月31日生まれ。大門町立浅井小学校、大門中学校、県立高岡高等学校を経て東北大学工学部土木工学科へ入学。小中高とボーイスカウト、中高大とハンドボール部に所属。中学生では生徒会長を務めた。大学卒業後、1995年に射水建設興業（株）へ入社。商工会青年部、青年会議所の活動を通じて、まちづくりには行政との強い関わりが必要であると痛感。政治の道を志し、2003年4月県議初当選、2007年4月2期目当選。現在に至る。

現在の役職など

◎県議会 教育警務常任委員会委員長
少子高齢対策特別委員会

他の主な所属団体

◎射水市相撲連盟会長代行
◎射水市ハンドボール協会会長
◎ボーイスカウト議員連盟
◎射水市商工会青年部
◎（社）高岡青年会議所など

なつの元志 後援会

〒939-0276 射水市北野（JAいみず野本店前）1558-14
TEL.0766-52-6316 FAX.0766-52-6317

<http://www.motoshi-n.jp>